

# 国語科学習指導案

授業展開	1校時
展開学級	2年8組
活動場所	図書館メディアセンター
指導者	T1 森畑浩幸 T2 高桑弥須子

## 市川市立第七中学校の研究主題

さまざまな人々と共に生きる力を育み、学ぶ楽しさを知り、自己肯定感を高める授業の在り方を探る。

### 国語科の研究主題

言語活動を充実させる授業づくりの工夫

#### 研究仮説

- ・主体的な言語活動となる授業づくりの視点  
言語活動を通して指導事項を指導することにおいて、主体的な言語活動にする視点をもって授業を構築することが言語活動の充実につながり、実生活で生きて働く国語の能力の育成となるであろう。
- ・言語活動を充実させるための交流  
交流を通してお互いに学び合う場を設定してその力を伸ばしていくことは、言語活動の充実につながり実生活で生きて働く国語の能力の育成になるであろう。
- ・言語活動を充実させるための学校図書館の有効活用  
学校図書館を有効に活用すれば、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活かして自分の考えを記述したりするなどの言語活動の充実につながり、実生活で生きて働く国語の能力の育成になるだろう。

1. 単元名 『平家物語』の魅力や平成に語り継ぐ35人の法師たち  
～ 『平家物語』群読CDを作ろう ～

#### 2. 単元について

##### (1) 本単元で行う言語活動

本単元では、語り文学としての『平家物語』の魅力に触れて楽しませることをねらい、学級全員35人で分担して『平家物語』の群読CDを作り、機会を得てはそのCDを聴いて『平家物語』に触れていく言語活動を行う。これは、中学校学習指導要領・国語の2年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」及び2年「C 読むこと」を踏まえて、言語活動例の1年「ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること」に基づいている。

周知のように『平家物語』は、軍記物語として「橋合戦」「宇治川先陣」など勇壮な合戦描写に魅力がある。また、「祇王」「小督」といった女性を主とした物語が挿入されていたり、宮廷内外における陰謀事件があったり、様々な人間ドラマが描かれていることも魅力の一つになっていて、作品全体は「無常観」というテーマに貫かれている。一方、和漢混浴文という独特の文体で、武士や庶民の日常語や方言が取り入れられたり、擬声語が多用されたりして、物語に独特の味わいが加味されている。そして、琵琶法師が「平曲」という芸能の形で人々に語り聞かせて流布したことは特筆すべき点である。

本単元では、こうした魅力や特徴をもつ『平家物語』を読むにあたり、琵琶法師による語り文学として流布した点に着目して、原文の朗読・群読を言語活動に取り入れることにした。朗読は、自分の鑑賞・感動を他の人に伝えるための方法であるが、作品の内容や表現を理解する方法でもある。群読は、複数の読み手による朗読であり、生徒たちは読みの分担をするために、必然的に作品の内容について話し合う学習に導かれると考えられる。一人では想像が膨らまない生徒も、友達の考えと比べたり、一緒に考えたり、実際に声を出して読み合ったりすることで、作品に対する理解も深まるであろう。そこで、作品の内容や表現への理解とそれを踏まえた群読の意図を明確にすることを目的に、群読台本をつくらせることにした。さらに、作品に関する解説やコラムなど様々な図書資料にも触れさせ、時代背景や登場人物の人柄及び人間関係などをとらえさせ、作品の内容や表現に対する理解の一助とすることにした。

しかし、『平家物語』は長編であり、本単元で全てを読むことはできない。そこで、教師が幾つか章段を選定し、学級全員 35 人を 6 つの班に分けて 1 章段ずつ選ばせて群読させることにした。章段の選定は、先に述べた「群読という言語活動」と「『平家物語』という学習材」の特徴に鑑み、次の 3 点から選定した。

- ①人数が増えることで表現の効果が高まるような群読に適した章段。
- ②『平家物語』のテーマである「無常観」が比較的とらえやすい章段。
- ③合戦描写や女性の物語など『平家物語』の様々な要素を担う章段。

このように、小グループをつくって分担して群読 CD 作りをさせることにより、表現活動の目的意識や相手意識を明確にもたせて、生徒一人一人の主体的な読みを促すことにした。一般的に音声 CD は、いつでも手軽に聴きたいところを聴ける利便性をもっている。群読 CD は、生徒たちにとって学級の友人たちの声ゆえに、学習後も『平家物語』に再び触れる機会になっていくと考える。

## (2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、先に述べた言語活動を通して、中学校学習指導要領国語における、次の三つの指導事項に関する知識や技能を身に付けさせようとしている。2 年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 作品の特長を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」と「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」に関する知識や技能を身に付けさせることにした。また、2 年「C 読むこと」の「オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の

考えをまとめること。」に関する知識や技能も身に付けさせることにした。

群読 CD 作りで、「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」に関する知識や技能を身に付けさせるためには、まず『平家物語』を読む前に作品の概要をとらえさせることにした。具体的には、『平家物語』に関する幾つかの書評や全体のあらすじと、教師が選定した群読させる章段の簡単なあらすじを読ませることにした。書評は、作品のテーマや歴史的な価値、特徴などをおおよそとらえさせるためのものである。全体のあらすじと教師が選定した群読させる章段のあらすじは、作品内容のおおよその構成を知り、選定された章段の作品上の位置づけを踏まえて、群読する章段を選ばせるためのものである。次に、群読に向けた学習のモデルとして、市販されている小学生の群読 CD と教師の群読 CD などを見せ、個人の朗読と群読との違いをとらえさせ、教師の群読の工夫も発見させることにした。さらに、群読の工夫の意図を考えさせることで章段の特徴もとらえさせることにした。その際、群読台本を学習モデルとして合わせて提示し、章段の特徴をとらえた群読へ導いていくことにした。そして、5名～6名のグループをつくって、個人の音読や朗読から、教師の群読台本を使った群読を体験させ、学習の見通しを持たせることにした。なお、群読させる章段の選定については、生徒たちの群読したい部分が極力重ならないようにするため、『平家物語』を概観して先に示した3点(①人数が増えることで表現の効果が高まるような群読に適した章段。②『平家物語』のテーマである「無常観」が比較的とらえやすい章段。③合戦描写や女性の物語など『平家物語』の様々な要素を担う章段。)において、教師が12の章段を選ぶことにした。生徒には、その12章段の中から魅力を感じる章段を選んで担当させ、より主体的な読みとしていくことで読みを深めさせ、群読の仕方を考えさせ、その読みが伝わる群読にさせていくことにした。選定した12章段を次に示す。なお、選定基準とした前述の3点のうち①②は共通項として、③について付記する。

1. 「祇王」 (巻第一より) 女性を主とした物語。
2. 「鹿谷」 (巻第二より) ユーモラスな平家打倒秘密会議。(王朝政界の末期)
3. 「足摺」 (巻第三より) 人間の我欲。(歌舞伎や能でも演じられる)
4. 「橋合戦」 (巻第四より) 大規模な合戦の中の勇ましさや豪快さ。
5. 「富士川」 (巻第五より) 合戦における不戦敗の醜態。
6. 「入道死去」 (巻第六より) 平家の中心人物の死去。
7. 「宇治川先陣」 (巻第七より) 激しい合戦の中の明るい男性的な笑い。
8. 「木曾最期」 (巻第九より) 合戦における武士の死に様。
9. 「坂落」 (巻第九より) 一進一退の合戦の形勢を決する奇襲。
10. 「敦盛最期」 (巻第九より) 合戦の中の親子の情愛や戦いのむなしさ。
11. 「那須与一」 (巻第十一より) 合戦における武士の葛藤や勇氣。
12. 「先帝身投」 (巻第十一より) 合戦における平家全滅と幼子の死。

実際の群読の練習については、ICレコーダーを用意して、生徒たちが自分たちの声を聞きながら主体的に改善・修正できるようにした。そして最後に、群読を発表するとともにCDに録音し、機会を得ては学級の友人の声を通して『平家物語』の世界を楽しめるものにし

ていくことにした。なお、担当章段の群読にあたっては、原文と現代語訳を『日本古典文学全集』より提示するとともに、原文と現代語訳の対応関係をとらえやすくするための補助資料を作成し、生徒たちが適宜活用できるようにした。

一方、群読CD作りにおいて、「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」に関する知識や技能を身に付けさせるためには、朗読や群読によるだけでなく、担当章段について様々な現代語訳や解説・コラムを重ねて読ませることにした。具体的には、『平家物語』の魅力・特徴や本単元のねらいから、次の3つの観点をもたせて現代語訳や解説・コラムなどを読ませることにした。

#### ①登場人物の気持ち

- ・身分、境遇、人柄、容姿、身に付けている物などをとらえてメモする。
- ・他の登場人物との関係、物理的位置関係、場の状況や環境等をとらえてメモする。

#### ②章段の位置づけ

- ・歴史や作品の中での位置づけや価値・評価などをとらえてメモする。
- ・特に無常観に関連することをとらえてメモする。

#### ③その他の気づき

- ・①②の他に自分たちが発見した担当章段の魅力、友人に伝えたいこと等をメモする。

このように、群読CD作りに向けて担当章段の魅力や特徴をとらえさせることで、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像することに関する知識や技能を身に付けさせていくことにした。

なお、本校司書の協力により『平家物語』の各章段の現代語訳や解説に関する図書資料を複数用意して読ませたり、インターネットを活用させたりすることによって、「C読むこと」の「オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。」に関する知識や技能をも身に付けさせるものにもした。具体的には、書名や目次などを参考にして複数の図書資料に触れさせ、先に示した3つの観点(①登場人物の気持ち②章段の位置づけ③その他の気づき)により、差異のある資料・情報などにも触れさせることで、担当章段に関する理解を広げたり深めたりして、群読の工夫を見出す土台にしていくことにした。また、必要に応じて、教師が選定した平家物語に関するサイトを閲覧させることにした。さらに、群読の録音を兼ねた発表会では、調べたことを生かして、担当章段と群読の魅力や特徴をより伝わりやすくするためのクイズを初めに出题させることにした。実際の群読発表会において、群読を聞く生徒たちは、目の前で群読される章段のあらすじだけを知っている状態にある。そこで、聞き手に群読を聞く構えや鑑賞の視点をもたせるためにクイズを出题させて、章段に関する情報を確認したり考えさせたりすることにした。また、群読の後には聞き手から感想を述べさせたり群読の工夫について質疑応答をしたりする時間を設けて、群読発表された章段の内容に対する理解をさらに促していくことにした。こうした群読CD作り・群読発表会にしていくことにより、多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめる力を養っていくことができると思う。

### (3) 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ（キーワード：「1.共に生きる力」「2.学ぶ楽しさ」「3.自己肯定感」）を踏まえ、国語科では「言語活動を充実させる授業づくりの工夫」を研究テーマとして、重点目標（「(1)主体的な言語活動」「(2)交流」「(3)学校図書館の活用」）を掲げた。「2.学ぶ楽しさ」を得させるためには、主体的な学習となるように「(1)言語活動」を組織することが肝要である。そして、その言語活動の充実を図るために、学習を広げたり深めたりできる「(3)学校図書館の活用」や、学び合う「(2)交流」が重要になる。「(2)交流」は、「1.共に生きる力」を育むためのものでもある。こうした主体的で充実した学びや学び合いを通じてこそ「3.自己肯定感」は高められるものと考えられる。

本単元と学校及び国語科の研究テーマとの関連は次の3点である。

- ①生徒の学びが「(1)主体的」となり、必然的に学び合う「(2)交流」に導かれる「群読」を言語活動に選定した。これは、「1.共に生きる力」「2.学ぶ楽しさ」に関連する。
- ②言語活動に選定した「群読」の充実・質の向上を目指して「(3)学校図書館の活用」を設定した。これは、「1.共に生きる力」「2.学ぶ楽しさ」に関連する。
- ③長編である『平家物語』の中から、他のグループと重ならない1章段の群読を担当させることにした。これは、生徒の学びを「(1)主体的」なものにするとともに「3.自己肯定感」を高めることに関連する。

### 3. 生徒の実態

本単元における『平家物語』の群読CDを学級全員で協同してつくることに関連して、昨年度は、大きく三つの学習に取り組んでいる。

一つは、古典の学習として、歴史的仮名遣いのきまりを知り『竹取物語』の冒頭部分を暗唱する学習である。この学習は、学習指導要領中学国語1年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特集のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。」に関する知識や技能を身に付けさせることにあたり、本単元における学習指導要領2年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 作品の特長を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」に関する知識や技能を身に付けさせることに繋がる。生徒たちは、『竹取物語』の冒頭部分を暗唱しようとして繰り返し音読する中で、そのリズムの良さを感得していた。本単元では、群読を言語活動に設定することで、リズムや言葉の響きはもちろん、役割分担を含めて工夫を見出す話し合いへと導き、作品の魅力や特徴を生かした朗読・群読に発展させていく。

二つ目は、『河童と蛙』の群読発表会に取り組んでいる。群読の発表を単元のゴールにして、詩に描かれている河童の心情や周囲の様子などについて、作品を繰り返し音読することでとらえたり、読みの過程で思い描いたことを群読として表現したりする学習である。河童の心情や周囲の様子を表現するために、速度を調整しながら読んだり、強弱をつけたり、声を重ねて読んだりするなど、様々に工夫する姿が見られた。この学習は、学習指導要領中学国語1年「C 読むこと」の「ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」に関する知識や技能を身に付けさせるものであるが、本

単元で「群読」を言語活動に選定していることから、学習指導要領2年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」に関する知識や技能を身に付けさせることに繋がっていくと考える。群読にあたっては、群読台本をつくらせることで、登場人物や作者の思いなどを想像した読みへ導いていく。また、他のグループとは異なる章段の群読を発表するという場の設定により、個人やグループの役割を自覚させ、より主体的な学習にしていく。

三つ目は、「芥川龍之介の作品紹介ポスター」をグループで協力して作る学習に取り組んでいる。『蜘蛛の糸』を読んだ後、芥川龍之介の他の作品に着目させ、魅力ある作品を選んでそれを紹介する学習である。芥川龍之介の数多くの作品の中からどの作品を選ぶか、図書資料の書評・解説に着目して作品を選ぶ姿が見られた。また、図書資料の書評・解説は、実際に作品を読んだ感想をグループで交流し、紹介する部分や内容を定める際の指針にもなっていた。この学習は、学習指導要領1年「C 読むこと」の「カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」に関する知識や技能を身に付けさせるものである。そして、本単元における学習指導要領2年「C 読むこと」の「オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。」に関する知識や技能を身に付けさせる学習に繋がる。本単元では、担当章段の内容理解・群読に役立てるとともに、群読の聞き手の理解を促進するためのクイズづくりのために、まず書名や目次に着目させて、担当する章段の現代語訳と解説に複数触れさせていき、章段の特徴や登場人物の心情などについて自分の考えをもたせていく。

今年度については、本単元に先立ち音読・朗読を中心とした方言詩の学習に取り組んでいる。2年生になり、しっかりと発音して音読する生徒は少なくなってしまうが、方言詩の言葉の響きとリズムに魅了され、休み時間に詩の一節を口ずさんだり、全文の暗唱に至る生徒がいたりした。他方、4月より各単元・授業の中で様々な交流場面を設けてきたが、座席の近い生徒間での自然な意見交換は皆無であり、生活班などを生かした課題解決に向けた話し合いも成立し難い現状にある。しかし、交流の対象を学級全体に広げると、気心の知れた友人と思考し始める姿は多少見られた。こうした生徒の現状から、音読・朗読における声量の課題については、本単元では群読を言語活動に選定すること、ICTの活用としてボイスレコーダーを用いた練習を設定すること、CDへの録音と発表といったゴールを設定することで克服していくことにした。また、効果的な交流を成立させるためには、群読グループを構成するにあたり、お互いに意見を述べ合って照れずに練習できることを第一義として、人数(6名程度)だけを条件に提示し、他は生徒の意向を汲むことにした。

このように、生徒の実態(これまでの学習や現状)に鑑み単元を構想することで、歴史的背景なども視野に入れた各章段の人物や作者の思いに基づく重層的読み・群読へ繋げていきたい。そのためにも、これまでの古典や群読、調べ学習などに関する学習を適宜想起させ、その意義や繋がりを意識させていく。

#### 4. 単元の見目

##### (1) 関心・意欲・態度

- ・『平家物語』の担当章段の特徴をとらえて、それを生かした群読をしようとする。
- ・『平家物語』の担当章段の現代語訳及び原文を読んで、登場人物の思いを想像しようとする。
- ・『平家物語』の担当章段について、現代語訳や解説及びコラムなど複数の図書資料を重ねて読み、歴史や作品中における担当章段の価値や魅力、登場人物の心情や思考に迫ろうとする。

##### (2) 読むこと

- ・『平家物語』の担当章段について、現代語訳や解説やコラムなど複数の図書資料を重ねて読み、歴史的背景を知ったり、登場人物の心情や思考に迫ったりして、作品や担当章段の魅力や特徴に対する自分の知識を広げたり考えを深めたりすることができる。

##### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・『平家物語』の担当章段の特徴を生かして群読することができる。
- ・『平家物語』の担当章段の登場人物の思いを想像することができる。

#### 5. 単元の評価規準

評価の項目	評価規準
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・『平家物語』の担当章段の特徴をとらえて、それを生かした群読をしようとしている。</li><li>・『平家物語』の無常観に触れ、担当章段の登場人物の思いを想像しようとしている。</li><li>・『平家物語』の担当章段について、多くの図書資料を重ねて読み、登場人物の心情や思考に迫るとともに、歴史や作品中における価値や魅力をとらえようとしている。</li></ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"><li>・『平家物語』の担当章段に関する図書資料を複数重ねて読み、歴史的背景や登場人物に関する情報などを得て、その魅力や特徴と群読をする際の工夫について、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【読むこと 才】</li></ul>
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・『平家物語』の担当章段の特徴をとらえて、それを生かした群読をしている。 【伝統的な言語文化に関する事項 ア】</li><li>・『平家物語』の無常観に触れ、登場人物の思いなどを想像している。 【伝統的な言語文化に関する事項 イ】</li></ul>

6. 本単元の指導と評価の計画（7時間扱い）

次	時間	ねらい 学習活動	○指導のポイント ☆必要な支援	評価規準（[ ]）と評価方法（・）
一	1	<p>◎ 単元のねらいをとらえ、群読CDづくり・群読発表会への見通しをもち、グループで担当する章段を選ぶことができる。</p>		
		<p>①『平家物語』について知っていることを想起した後、幾つかの書評を読み、その作品の特徴から本単元の学習のねらいをとらえる。</p>	<p>○『平家物語』の概要を知らせ、その特徴から、作品を読み楽しむために群読CD作りをするのとらえさせる。 ☆『平家物語』の概要を簡単にとらえられる資料を作成して提示する。</p>	<p>[関]『平家物語』の概要及びその群読に触れ、学習のねらいをとらえて群読したい章段を探そうとしている。</p>
		<p>②群読発表会の学習モデルとして、教師の出題するクイズを解いたり群読を聞いたりして学習の見通しを持つ。</p>	<p>○教師が群読発表会のモデルを提示することで、学習の見通しを持たせるとともに、クイズづくりや群読に関心をもたせる。 ☆生徒の表現活動が豊かになるように、二つのモデルを提示する。</p>	<p>・授業中の様子や学習の振り返りを通して、クイズや群読に対して関心をもっているかをとらえて評価する。</p>
	2	<p>③グループを構成し、教師の群読台本に基づいて『平家物語』冒頭部の群読をして、体験的に学習の見通しをもつ。</p>	<p>○全員に群読体験をさせ、学習の見通しをもたせる。 ☆群読台本は、すべてルビを付けて古語への抵抗を軽減する。 ☆役割分担をする方法を幾つか提示する。また、新たな工夫の加えられる箇所や方法を探さよう促す。</p>	<p>・授業中の様子や学習の振り返りを通して、グループで協力して取り組むことができたかをとらえて評価する。</p>
		<p>④グループごとに魅力を感じる章段を幾つか選び（初めは個人で幾つか選ぶ）、クラス内で担当を決める。そして、現代語訳を読んでおおよその内容をとらえる。</p>	<p>○各グループの意向が反映されるよう配慮して担当章段を決める。 ☆担当章段を選ぶために、各章段の特徴や内容を簡単にとらえられる資料を作成して提示する。 ☆各章段の現代語訳は、可能な限り難しい言葉を使わずに表現した資料を作成して提示する。</p>	<p>・学習の振り返りを通して、関心をもった章段とその理由をとらえて評価する。</p>



<p>二 1</p>	<p>◎ グループで担当する章段の理解を広げたり深めたりすることができる。</p>	
	<p>⑤ 担当章段の群読をするために、章段の内容を理解する。 ※ 次の⑥と同時に取り組むこともある。</p> <p>○ 担当章段について、複数の図書資料の現代語訳や解説を読ませて内容をとらえさせる。(個人で学習した後に交流させる。) ☆ 目的にあった図書資料を探すために、目次や解説に着目させる。 ☆ グループで教冊用意させ多くの図書資料が情報を集めるよう促す。 ☆ 登場人物の心情や作者の思いを中心に、群読の工夫を考えることに役立つ視点を与え、ワークシートを用意してメモを取らせる。</p>	<p>[関] 担当章段の群読をするために、いろいろな図書資料を読み、章段の魅力や特徴が表れている部分を探そうとしたり、登場人物に関する情報を集めようとしたり、その心情について考えようとしている。 ・ 授業中の様子や図書資料から得た情報のメモ及び学習の振り返りを通して、章段の魅力や特徴及び登場人物の心情をとらえようとしているか評価する。 [読] 担当章段の群読をするために、いろいろな図書資料を読み、章段の魅力や特徴が表れている部分をさがしたり、登場人物に関する情報を集めたり、その心情について考えたりしている。 ・ 授業中の様子や図書資料から得た情報のメモ及び学習の振り返りを通して、章段の魅力や特徴、登場人物の心情をとらえているか評価する。</p>
<p>2</p>	<p>⑥ 担当章段の群読台本をつくる。 ※ 前の⑤と同時に取り組むこともある。</p> <p>○ ⑤の学習活動を生かして具体的に群読する部分を決めさせる。 ○ ⑤の学習活動を生かして群読の役割分担や工夫を個人で考えさせる。 ○ 個人で繰り返し音読させ群読の役割分担や工夫を考えさせる。 ○ 個人で考えた役割分担や工夫などのアイデアを出し合い群読の仕方を決める。(台本を複数作る) ☆ 群読する文章量は、教科書教材の「敦盛の最期」「那須の与一」を参考にさせる。</p>	<p>[関] 担当章段の魅力や特徴及び人物の心情をとらえた群読をしようとしている。 ・ 授業中の様子や群読台本及び学習の振り返りを通して、担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情をとらえようとしているか評価する。 [伝] 担当章段の群読をするために、章段の魅力や特徴が表れている部分をさがしたり、登場人物に関する情報や心情から群読の役割分担や工夫を考えたりしている。 ・ 授業中の様子や群読台本及</p>

		<p>☆必要に応じて、工夫の範囲内で言葉を増やしたり効果音を考えたりさせる。</p> <p>☆実際に群読してみながら修正をするよう促す。</p>	<p>び学習の振り返りを通して、章段の特徴や登場人物の心情をとらえているか評価する。</p>
3	<p>⑦ 担当章段の練習をする。</p> <p>※ 次の⑧と同時に取り組むこともある。</p>	<p>○ 群読台本をもとにして、役割分担や工夫の意図を踏まえた表現をさせる。</p> <p>☆ ICレコーダを用意して、自分たちの群読を録音して、その読みを確認、修正ができるようにする。</p> <p>☆ グループで作った複数の台本による群読を録音し、比較する中でより良い群読を追求するよう促していく。</p>	<p>[関] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を朗読・群読で表現しようとしている。</p> <p>・ 練習の様子や学習の振り返りから、担当章段の魅力や特徴及び登場人物の思いを朗読・群読で表現しようとしていたかとらえて評価する。</p> <p>[伝] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を朗読・群読で表現している。</p> <p>・ 練習の様子や学習の振り返りから、担当章段の魅力や特徴及び登場人物の思いを朗読・群読で表現しているかとらえて評価する。</p>
4	<p>⑧ 担当章段の特徴や登場人物の心情を表現する群読を補完するクイズをつくる。</p> <p>※ 前の⑦と同時に取り組むこともある。</p>	<p>○ あらすじだけを読んでいる聞き手に対して、原文の群読を聴く時の、章段に関する予備知識や視点をもたせるためのクイズをつくらせる。</p> <p>☆ 担当章段の中心となる人物や出来事に関する事柄に着目させ、学習活動⑤で集めた情報を活用させる。</p>	<p>[読] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を表現する群読の補完となるクイズをつくっている。</p> <p>・ 学習の振り返りやワークシート及び発表会において、担当章段の群読を補完するクイズがつくられているか評価する。</p>
	<p>⑨ 群読練習をしたり、クイズの内容を確認するなど、群読発表会の準備・リハーサルをする。</p>	<p>○ 担当章段の魅力や特徴、人物の心情を表現できるよう、群読の立ち位置などを決めさせ、ICレコーダを使用して練習させる。</p> <p>○ 発表会の進行シナリオに従って、進行役、クイズの出題役など割分担を決めさせ、リハーサルを行わせる。</p>	<p>[関] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を、群読やクイズで表現しようとしている。</p> <p>・ 練習の様子や学習の振り返りから、担当章段の特徴や登場人物の思いを朗読・群読で表現しようとしていたかとらえて評価する。</p>

			<p>☆教師が、クイズを含めた群読発表会の実演を行って、その手順を示すとともに、ワークシートを用意して役割分担などを明記させる。</p>	<p>[伝] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を、群読やクイズで表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の様子や学習の振り返りから、担当章段の魅力や特徴、登場人物の思いを朗読・群読で表現しているかとらえて評価する。</li> </ul>
三	1	⑩群読のCD録音・群読発表会を行う。	<p>○担当章段の特徴や人物の心情などを群読で表現させる。また、群読を補完するクイズを出題させ、質疑に回答するなかで、担当章段に対する理解を促進させる。</p> <p>○群読を聞いたりクイズに答えたりするなかで、各章段の魅力や特徴及び登場人物の思いをとらえさせる。</p> <p>☆聞き手が受け身にならないように、発表を聞く視点をもたせたり、そのメモを取らせるワークシートを用意する。</p>	<p>[関] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を、群読やクイズで表現しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や群読台本、その他のワークシートから、担当章段の魅力や特徴及び登場人物の思いを群読やクイズで表現しようとしていたかとらえて評価する。</li> </ul> <p>[関] 他の章段の魅力や特徴及び登場人物の心情などをとらえようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群読発表会に臨む様子や、ワークシート及び学習の振り返りから、他の章段の魅力や特徴及び登場人物の心情などをとらえようとしているか評価する。</li> </ul> <p>[伝] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を、群読やクイズで表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や録音された群読から、担当章段の魅力や特徴、登場人物の思いを群読やクイズで表現しているかとらえて評価する。</li> </ul> <p>[伝] 群読やクイズにより、他の章段の魅力や特徴及び登場人物の心情をとらえている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート、学習の振り返りから、他の章段の魅力や特徴及び登場人物の心情等をとらえているか評価する。</li> </ul>

## 7. 本時の指導 ( 6/7 )

### (1) 本時の目標

[関] 担当章段の魅力や特徴と登場人物の心情を、群読やクイズで表現しようとしている。

[伝] 担当章段の魅力や特徴と登場人物の心情を、群読やクイズで表現している。

(2) 本時の展開

時配	学習活動と児童生徒の反応	指導のポイント(○) 必要な支援(☆) 評価規準([ ])と評価方法(・)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     群読発表会(録音)のリハーサルをして、群読を磨こう。                 </div>	
8	① 本時の学習のねらいと流れを知り、教師の群読発表会のデモンストレーションを見て、群読発表の手順を知る。 ・群読する際の立ち位置や、発表を進行する時の役割分担が必要なことに気づく。 ・群読の練習の必要性やクイズの内容の検討が必要なことに気づく。	○本時の学習の流れを黒板に示し、発表の手順を記したワークシートを提示して、教師(T1とT2)が群読発表などの実演を行い、発表方法を知らせて発表の見通しをもたせる。 ☆聞き流さないように、適宜解説を入れるとともに、クイズや感想をグループ単位で指名して答えさせる。
7	② 発表の手順に従い、グループごとに役割分担などを決める。 ・発表会のイメージをもち、自分の役割を確認することができる。	○発表の際使用するワークシートを用意して、役割分担を記入させる。 ☆自分の役割を問い、リハーサルの準備ができているかを確認する。
30	③ リハーサルに向けて群読の練習とクイズの内容の精選をする。リハーサル後、改善練習をする。(群読について、一番上手くできた録音を保存しておく。) ・群読の新たな工夫が生まれる。 ・クイズ問題を変更する。 ④ 発表会のリハーサルをグループごとに行う。(5分程度) ・発表におけるグループでの課題と、各々の課題に気づくことができる。 ※③と④は同時に展開する。 リハーサルは事前に決めておいた順番で行う。	○クイズが担当章段の魅力や特徴をとらえさせるための問いになっているか確認させる。 ☆T1がリハーサルを担当し、クイズがポイントをとらえたものになっているか、群読が台本を具現化したものになっているか評価して助言する。 ☆T2は、リハーサル前は、群読台本の生かし方を中心に助言する。リハーサル後は、T1の助言内容を生徒に確認して支援する。 [伝] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を、群読やクイズで表現している。 ・リハーサルや学習の振り返りから、担当章段の魅力や特徴、登場人物の思いを群読やクイズで表現しているかとらえて評価する。
5	⑤ まとめとして学習を振り返る。 ・次回の群読発表会に向けて、目標や豊富をもつ。(群読の際、自分が気をつける点や練習をしておかなければならない点を具体的にもつ。)	[関] 担当章段の魅力や特徴及び登場人物の心情を、群読やクイズで表現しようとしている。 ・T1とT2により、練習の様子や学習の振り返りから、担当章段の特徴や登場人物の思いを群読で表現しようとしていたかとらえて評価する。

